

# 論文テスト

慶應義塾大学 商学部 1/3

## <総括>

試験時間 70分

問題形式は、例年通り数理的推論を含む推論中心の問題である。大問数は、昨年度と同じ2題。出題テーマは、AIと人間の協同とソートアルゴリズムについてである。大問Ⅰは空欄に語句を補充する問題が含まれている。空欄に語句を補充する問題を解くためには、単に文脈で判断するだけでなく、課題文の内容を十分に理解したうえで、論理的な思考で最も適切な語句を選択することが重要である。大問Ⅱはソートアルゴリズムである。アルゴリズムを主題とした出題は初めてであり、受験生も戸惑ったと思われる。だが、課題文の指示通りの計算を重ねることで正解にたどり着く。計算問題は、課題文の内容に沿って計算方法を理解し、計算ミスがないように丁寧に計算することが求められる。昨年度よりも大きく難化している。慶應義塾大学商学部の難易度は、年度ごとに大きく異なるので、大学が発表している受験者の平均点などを参考に、年度ごとの難易度を判断してほしい。

計算問題や数理的思考を問う問題をはじめ、暗号など様々なテーマの問題が出題される慶應義塾大学商学部の論文テストであるが、数理的推論という問題形式と学部系統的な出題テーマという傾向は今後も大きくは変わらないと考えられる。

## <課題文の分析>

大問番号	I～II
内 容 (主題)	I AIと人間の協同 II ソートアルゴリズム
出 典 (作者)	I 江間有沙「鏡としての人工知能」、東京大学教養学部編『異なる声に耳を澄ませる』、白水社、2020年 II 未詳
長短・ 難易等 前年比較	長短 (短い・やや短い・ <b>変化なし</b> ・やや長い・長い) 難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・ <b>難化</b> )

# 論文テスト

## <大問分析>

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答字数	コメント（設問内容・論述ポイントなど）
I	課題文	学部系統的	1	その他 (空欄補充)		課題文の空欄に入る適切な語を選択肢から選び、その番号をマークシート解答用紙(1)(2)～(19)(20)解答欄にマークする。
			2	その他 (空欄補充)		課題文の空欄(A)～(C)に入る適切な語句を選択肢から選び、その番号をマークシート解答用紙(21)～(23)解答欄にマークする。
			3	その他 (空欄補充)	計16字	課題文の空欄(ア)～(ウ)に入る適切な語を課題文中から抜き出し、解答用紙の所定の欄に記入する。
			4	その他 (推論)	計16字	課題文の空欄(あ)～(い)に入る適切な語句を課題文中から抜き出し、解答用紙の所定の欄に記入する。
			5	その他 (推論)	30字	技術によって解決しない問題に対して、どのように対処するのかを推論し、責任という語を用いて解答用紙の所定の欄に記入する。
	課題文	学部系統的	1	その他 (数値計算)		課題文中の空欄(24)(25)～(50)(51)に入る適切な数字をマークシート解答用紙にマークする。
			2	その他 (数式提示)		課題文中の空欄(ア)～(エ)に入る適切な式を解答用紙の所定の欄に記入する。
			3	その他 (推論)	8字	課題文中の下線部(a)の理由を推論し、解答用紙の所定の欄に記入する。
			4	その他 (推論)	20字	課題文中の下線部(b)の理由を推論し、ソートという語を用いて解答用紙の所定の欄に記入する。

※出題形式は「テーマ・課題文（英文を含む場合は付記する）・図表・その他」

※テーマ・課題文の内容は「一般教養的・学部系統的・教科論述的・その他」

※設問形式は「論述・要約・説明・分析・その他」

# 論文テスト 慶應義塾大学 商学部 3/3

## <答案作成上のポイント・学習対策等>

大問Ⅰは、AIと人間の協同についての問題である。問1、問2、問3は空欄補充問題である。問1、問2は選択肢が多いので、正しい選択肢を見落とさないように注意が必要である。問3は課題文から適切な語を抜き出す問題である。課題文の語句を注意深く吟味する必要がある。問4、問5は推論問題である。問4では深層学習において人種差別が生じる理由を考える。問5はAIと人間が協同するために重要なことを課題文から推論する。

大問Ⅱは、ソートアルゴリズムについての文章である。ランダムシャッフルソートから、バブルソート、マージソートについて、それぞれの比較回数の最小と最大を求める。正しく計算しなければならず、また、数式を書くことも要求されるので、それぞれの原理がきちんと理解できないと正解を導けない。多少、計算が面倒なので計算ミスには気を付けたい。

学習対策としては、経済学に関する基本的な知識を身につけることと、計算力を磨くことである。過去問を中心にしっかりと備える必要がある。また、今回の出題を踏まえるとアルゴリズムに対する学習も必要となる。河合塾の授業や講習を受講していればこのような特殊な形式の問題にも十分に対応できるだろう。